福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	放課後児童クラブ整備事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	430399	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230	頁
施策体系	施策コード	050301	施策名	子どもの心豊かな育ちを支える環境をつくる									
計画期間	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等	児童福祉法												
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業	放課後児童クラブ運営事業												

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	放課後児童クラブ利用児童の増加に対応し、管理業務の効率化を図るとともに、児童の安心安全な見守りの場を保障するために必要な改修及び整備を行う。			
対象者	放課後児童クラブ登録児童（直営、委託分）	対象者数	1,300	単位あたりコスト 2.2
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）			
委託先・実施主体等	株式会社kkc情報システム			
事業概要（箇条書き）	○大正放課後児童クラブエアコン設置工事 ○放課後児童クラブ使用料納付書出力レイアウト改修業務委託			

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
委託料	330	子ども子育て支援システム改修業務委託
工事請負費	484	大正放課後児童クラブエアコン設置工事

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	5,106	1,500	6,019	29,689
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		5,106	1,500	6,019	29,689
予算財源内訳	① 一般財源	1,406	200	6,019	1,213
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	18,376
	④ 地方債	3,700	1,300	0	10,100
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	330	0	0
	② 配当予算	5,106	1,830	0	0
	③ 執行額	2,332	814	0	0
	④ 執行率	45.7%	44.5%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.20 / 0.00	0.26 / 0.00	0.26 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	1,600	2,080	2,080	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		3,932	2,894	2,080	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	種類	実績金額	決算付属資料	頁
	放課後児童クラブ整備事業（地域活性化）	教育債	400	54	
	放課後児童クラブ整備事業（きょうと地域連携交付金）	教育費府補助金	42	32	

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	必要な施設整備	箇所	11/18	11 / 18	11 / 16	/ 15	18

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	年間登録児童数	人	1655	1660 / 1655	1625 / 1655	/ 1655	1700
	単位あたりコスト		2.6	1.4	0.5		
	児童クラブ支援の単位数	単位	27/27	25 / 25	27 / 27	/ 26	25
	単位あたりコスト		160.5	93.3	30.1		

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・放課後児童クラブは、保護者が安心して就労するために、小学生の見守りを行うもので、核家族化の増加や女性の社会進出に伴い、放課後児童クラブの利用ニーズは年々高まっている。特に、1から3年生までと、夏季・春季休業中の利用率が高い。 ・児童クラブの運営を効率的に行うためのシステム改修と児童が安心して過ごすための施設整備は必要不可欠である。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・放課後児童クラブの運営を効率化するために、児童クラブの利用者登録、使用料等の管理を行っている子ども子育て支援システムの改修について、必要最小限のコストで最大限の効果が発揮できるよう検討を行った。 ・放課後児童クラブを運営している施設は全体的に老朽化しており、児童クラブの居室について児童が安全に過ごせる環境を保つために、空調施設について、コスト面等を考慮し、施設改修を行った。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・保護者が安心して就労するために、環境が整った施設で児童を安全に見守るための施設改修、システム改修は有効である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●核家族化や共働き家庭の増加に対応し、保護者の就労時に小学生を安心して預けられることは最も重要なことである。その受け皿となる放課後児童クラブの設置は必要不可欠なものであり、システム改修、施設改修を行い、子どもの安心・安全な環境を提供することができた。		
これまでの課題及び今後の方向性	●統廃合した小学校の学区内にある放課後児童クラブの運営形態を検討し、特に、大江・三和放課後児童クラブ等について関係機関と連携し、必要に応じた施設整備を検討する。 ●活動実績は、国が示す1単位（支援の集団の規模、概ね40人以下）の児童数に、より近づけて単位数の目標値を設定したいと考えており、惇明・昭和・雀部において、単位数を増やしていくために、指導員及び専用教室の確保を行うと共に、今後も必要に応じた施設整備が不可欠である。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	児童の安心・安全な見守りの場を保障するため、必要な施設の改修等を計画的に行う。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☑ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策事業（放課後児童クラブ）											
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課					所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	430351	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230 頁
施策体系	施策コード	050301	施策名	子どもの心豊かな育ちを支える環境をつくる								
計画期間	開始年度	令和2年度	終了予定年度	令和2年度	関連計画名							
根拠法令等												
事業区分	☐ 法定受託事務 ☑ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）											
R3現在の状況	☐ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☑ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合											
関連事業	放課後児童クラブ運営事業											

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	保護者が就労等の理由で昼間不在である小学生に対し、放課後や学校休業日に安心して生活する場所を提供し、安全に見守りを行っているが、既存の備品や消耗品では新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が十分でないため、対策に必要な備品や消耗品を購入する。			
対象者	放課後児童クラブ利用者・従事者	対象者数	1,416	単位あたりコスト 6.3
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）			
委託先・実施主体等				
事業概要（箇条書き）	対象者：放課後児童クラブ登録児童数1,266人 放課後児童クラブ指導員150人（令和2年11月現在） 開設日：常時 月～金・・・14：00～19：00、土・・・7：45～19：00 長期（春・夏・冬休み期間） 月～土・・・ 7：45～19：00 放課後児童クラブを開所するために感染拡大防止対策として必要な衛生用品（消毒液等）及び備品（空気清浄機等）の購入			

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	需用費	2,111	新型コロナウイルス感染症対策（体温計、消毒液などの消耗品）
	備品購入費	6,344	新型コロナウイルス感染症対策（大型空気清浄機、自動消毒液噴霧器、サーキュレーター）

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	0	0	0	0
	② 補正予算	0	13,500	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		0	13,500	0	0
予算財源内訳	① 一般財源	0	0	0	0
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	13,500	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	0	0	0
	② 配当予算	0	13,500	0	0
	③ 執行額	0	8,455	0	0
	④ 執行率	0.0%	62.6%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.00 / 0.00	0.06 / 0.00	0.00 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	0	480	0	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		0	8,935	0	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金（放課後児童クラブ）		教育費府補助金	実績金額	8,454	決算付属資料	32	頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	新型コロナウイルス感染症発生クラブ	箇所		/	0 / 0	/	0
		箇所		/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	安全対策を講じたクラブ	箇所		/	16 / 16	/	16
	単位あたりコスト				528.4		
		箇所		/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・全国的な新型コロナウイルス感染症の集団感染等の発生が継続する中、放課後児童クラブは、継続して提供することが必要な業務として開設を続けている。利用者である子どもと指導員が感染しないための感染症拡大防止対策を図る必要がある。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・放課後児童クラブの規模（居室の面積、児童数）に応じて、費用面と感染防止の効果の検討も行い、最も効果のある感染症拡大対策を行った。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	児童を安全に見守るために、感染症拡大防止対策を講じるための事業としてとても有効である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で保護者の就労支援のために継続的に児童クラブを運営しており、児童を安全に見守るための対策としての事業であり、目的に沿ったものとなっている。感染対策の備品の購入等を行い、徹底した感染症拡大の対策を講じたため、市内のすべての放課後児童クラブで児童の感染者を出していない状況である。		
これまでの課題及び今後の方向性	放課後児童クラブは、その性質上、利用児童も指導員も3密を避けられない状況下での運営になっている。利用児童の保護者からも感染症拡大防止対策について常に要望もあり、感染症対策のための取り組みを継続的に行う必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	・予算執行率は62.6%であるが、課題及び今後の方向性には「備品購入等の事業を継続的に行う必要がある」と記載されており、計画的な予算執行がされたのか疑問である。 ・感染者、クラスター発生が無かったことも成果・評価として記載してはどうかと考える。また、利用者の意見から今後の改善点などを整理しておく必要がある。 ・当事業と他の新型コロナ拡大防止事業と共同で物品調達を行うなどの検討も必要であったと考える。

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☑ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	継続事業である放課後児童クラブ運営事業において、新型コロナウイルス感染症対策として必要な消毒液などの消耗品の購入を行う。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☑ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	放課後児童クラブ従事者への慰労金支給事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課							所属長	浅田 久子			
会計情報	事業コード	430358	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230	頁
施策体系	施策コード	050301	施策名	子どもの心豊かな育ちを支える環境をつくる									
計画期間	開始年度	令和2年度	終了予定年度	令和2年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☐ 継続中 ☑ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業	放課後児童クラブ運営事業												

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	コロナの中、細心の注意を払いながら放課後児童クラブの運営に従事した支援員に対し慰労金を支給する。				
対象者	放課後児童クラブ従事者	対象者数	155	単位あたりコスト	32.2
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	対象者：直営（12クラブ） 114人、委託（1クラブ） 5人、地元運営（4クラブ） 36人 対象期間：令和2年1月30日から令和2年6月30日まで 対象要件：上記期間中に常勤雇用があり、10日以上勤務した者 支給金額：1人あたり一律30,000円				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	報償費	4,590	放課後児童クラブ従事者への慰労金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	0	0	0	0
	② 補正予算	0	4,770	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		0	4,770	0	0
予算財源内訳	① 一般財源	0	0	0	0
	② 国支出金	0	4,770	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	0	0	0
	② 配当予算	0	4,770	0	0
	③ 執行額	0	4,590	0	0
	④ 執行率	0.0%	96.2%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.00 / 0.00	0.05 / 0.00	0.00 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	0	400	0	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		0	4,990	0	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	放課後児童クラブ従事者への慰労金支給事業（地方創生臨時交付金）	種類	教育費国庫補助金	実績金額	4,590	決算付属資料	22	頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
		件		/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	慰労金支給対象者	人		/	155 / 155	/	155
	単位あたりコスト				29.6		
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・全国的な新型コロナウイルス感染症の集団感染等の発生が継続する中、放課後児童クラブは、継続して提供することが必要な業務として開設を続けている。利用者である子どもとの濃厚接触が避けられない業務内容であることや心身の負担等を考慮し、従事する者に対し、感謝の意を込めて慰労金を支給する。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	新型コロナウイルス感染が拡大する中において、指導員として厳しい状況下での従事であり、活動内容に沿った事業の実施である。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながらの従事が予想されることから、指導員として継続して従事するための事業として有効である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	新型コロナウイルス感染拡大の状況下で3密を回避し、放課後児童クラブの運営に継続的に従事しており、慰労金支給事業は、目的に沿ったものとなっている。コロナ禍の中であって、指導員の士気を低下させることなく継続して児童の安心・安全な見守りをすることができた。		
これまでの課題及び今後の方向性	放課後児童クラブでの児童の見守りは、心身ともに厳しい状況であるため、更なる指導員の処遇改善を検討する必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	・新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、放課後児童クラブの提供を継続するために必要な事業であったと考えるが、慰労金の支給によりどのような効果があったのか把握する必要がある。

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☑ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の終息が見えてこない状況の中、感染のリスクが高い環境で従事している職員に対し、感染リスクを軽減するため、常に職員に聞き取りを行い、職場環境の改善を図っていきたい。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☑ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	障害者講座事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課							所属長	浅田 久子			
会計情報	事業コード	420301	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	228	頁
施策体系	施策コード	050402	施策名	自立と社会参加を促進する									
計画期間	開始年度	昭和52年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	知的障害者、視覚障害者及び聴覚障害者など、障害のある人が生涯を通して教育や文化、スポーツなどに親しみ、仲間と共にいきいきとした生活を送れるよう、自らが進んで社会参加できるような学習と交流の場を提供する。また、障害のある人が、互いに悩みや希望を語り合い、明日への活力を得るための機会とする。			
対象者	知的障害者、視覚障害者、聴覚障害者	対象者数	146	単位あたりコスト 15.8
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）			
委託先・実施主体等	京都ユニオンサービス(バス運転代行)			
事業概要（箇条書き）	●文化・芸術体験学習、スポーツ体験、宿泊体験、調理体験、施設見学、他市交流など各種講座を実施。 障害者青年学級 6回/年、参加者：各回10～35人 視覚障害者成人講座 3回/年、参加者：各回20人～25人 聴覚障害者成人講座 3回/年、参加者：各回10人程度			

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
報償費	42	青年学級指導者・聴覚障害者成人講座手話通訳謝礼
需用費	18	青年学級文集製作、福祉バス燃料費、青年学級講座材料費
役務費	2	青年学級指導者傷害保険料
委託料	12	バス運転代行業務委託料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	358	207	211	493
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		358	207	211	493
予算財源内訳	① 一般財源	358	207	211	493
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	△ 34	0	0
	② 配当予算	358	173	0	0
	③ 執行額	198	74	0	0
	④ 執行率	55.3%	42.8%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.30 / 0.00	0.28 / 0.00	0.28 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	2,400	2,240	2,240	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		2,598	2,314	2,240	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
成果実績（アウトカム）実績／目標	延べ参加人数	人	302/350	332 / 350	121 / 300	/ 300	300
	出席者/教室・講座登録者	人	298/200	268 / 200	224 / 200	/ 220	220

	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
活動実績（アウトプット）実績／計画	講座開催数	回	19/19	17 / 18	11 / 15	/ 12	12
	単位あたりコスト		13.1	11.6	6.7		
			/	/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・知的障害者、視覚障害者及び聴覚障害者が社会参加の場を拡大することになることから、市が取り組む必要性は高い。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・各種講座については、年度当初に対象者と一緒に計画し講座内容を充実するよう実施している。 ・障害を克服しながら仕事や生活の中で、友との語らいや共に学ぶ機会が少ない状況の中、社会の一員として充実した生活が営めるよう学習機会の充実に努め、心豊かな暮らしを目指す学習活動が実施できるよう事業コストも考慮し実施している。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた回数全ての講座の実施が実現できなかったが、可能な範囲で事業を実施した。また、青年学級では社会見学や宿泊体験は中止としたが、出前講座や市内の公共施設を活用しての体験講座を計画し、学級生にも好評であった。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●障害を持つ市民に生涯学習の場を提供するとともに、社会参加を進めるきっかけ作り、手段の一つとして大きな役割を果たしている。 ●講座計画、内容については参加者の意見を聞きながら毎年充実を図っている。 ●青年学級：定期的、計画的な教室(講座)事業実施により、知的障害者の社会参加の場を提供でき、明日への意欲と希望を見出す機会となっている。また、事業を通じて仲間との交流にもなっている ●視覚・聴覚障害者：視覚、聴覚・言語に障害がある人に対し、様々な講座を通して学習の機会を提供し、互いに希望を見つけ、明日への活力を得るための機会となっている。		
これまでの課題及び今後の方向性	●青年学級：在籍者に対比して、仕事や家庭の事情等で、参加できるメンバーが固定化しつつあり、交流の機会や活性化が望まれる。 ●視覚・聴覚障害者：参加者が、視覚及び聴覚障害者協会の会員が主体となっており、協会会員以外の参加促進等の手法等を考える必要がある。 ●視覚障害者講座：中丹の研修会と管内研修を同一日とすることにより参加者の負担軽減を図るとともに、経費の削減を行なう。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●今後も、障害者の自立及び社会参加の場を保障するために事業を充実させ、啓発においては市のHPも活用し、各講座の開催について広く広報していく。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☑ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	放課後児童クラブ運営事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	430304	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	228・230	頁
施策体系	施策コード	050301	施策名	子どもの心豊かな育ちを支える環境をつくる									
計画期間	開始年度	平成17年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等	児童福祉法、福知山市放課後児童健全育成事業補助金交付要綱												
事業区分	☐ 法定受託事務 ☑ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業	放課後児童クラブ整備事業												

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	福知山市立小学校に在籍する小学生の保護者等が、就労等の理由で昼間不在である児童に対し、放課後や学校休業日に安心して生活する場所を提供し、見守りを行うとともに、保護者の就労と子育ての両立を支援する。			
対象者	放課後児童クラブ登録児童	対象者数	1,430	単位あたりコスト 121.6
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☑ 補助金交付 ☐ その他 （ ）			
委託先・実施主体等	(委託)社会福祉法人 上豊富福祉会 （補助）上川口・佐賀・上六人部放課後児童クラブ			
事業概要（箇条書き）	開 設 日 :4月1日から翌年3月31日まで（日曜日及び祝祭日、12月29日から1月3日を除く） 開設時間:平日（月曜日から金曜日）下校から午後7時まで（土曜日及び振替休日）午前7時45分から午後7時まで 長期休業期間（春・夏・冬）午前7時45分から午後7時まで 開設場所:直営12箇所（惇明・昭和・大正・雀部・庵我・修斉・遷喬・六人部・成仁・三和・夜久野・大江） 委託1箇所（上豊富） 地元3箇所（上川口・佐賀・上六人部） ※ 利用は事前登録制で、使用料が必要			

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	報酬	118,063	放課後児童クラブ臨時職員報酬
	職員手当等	7,495	放課後児童クラブ臨時職員職員手当
	報償費	5	放課後児童クラブ指導員研修会講師謝礼
	需用費	4,869	放課後児童クラブ運営に係る消耗品費、光熱水費、施設維持管理費他
	役務費他	19,667	放課後児童クラブ運営に係る通信運搬費、放課後児童クラブ業務委託費、放課後児童クラブ運営補助金他

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	160,304	160,382	154,174	165,337
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		160,304	160,382	154,174	165,337
予算財源内訳	① 一般財源	0	0	0	0
	② 国支出金	32,732	30,679	29,925	30,166
	③ 府支出金	32,732	30,679	29,925	30,166
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	94,840	99,024	94,324	105,005
決算情報	① 流充用額	18	△ 414	0	0
	② 配当予算	160,322	159,968	0	0
	③ 執行額	150,849	150,099	0	0
	④ 執行率	94.1%	93.8%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	2.98 / 1.98	2.35 / 1.98	2.35 / 1.98	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	28,790	23,750	23,750	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		179,639	173,849	23,750	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁
		放課後児童クラブ使用料		教育使用料		43,131		12	
		放課後児童クラブ運営事業（子ども子育て支援交付金）		教育費国庫補助金		33,439		22	
		放課後児童クラブ運営事業（子ども子育て支援交付金）		教育費府補助金		31,898		32	

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	保護者アンケートによるプラス評価	%	93/91	93 / 91	93 / 91	/ 91	91

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	児童クラブ開設学区数	校区	20/20	19 / 19	16 / 16	/ 15	16
	単位あたりコスト		7315.0	7939.4	9381.2		
	児童クラブ支援の単位数	単位	27/27	25 / 25	27 / 27	/ 26	26
	単位あたりコスト		5689.4	6034.0	5559.2		

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・放課後児童クラブは、保護者が安心して就労するために、小学生の見守りを行うもので、核家族化の増加や女性の社会進出に伴い、放課後児童クラブの利用ニーズは年々高まっている。特に、1から3年生までと、夏季・春季休業中の利用率が高い。 ・16箇所中4箇所を業務委託と地元組織で運営している。今後は、業務委託の方法等について、検討を行う。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・平成30年7月使用分より使用料の改定と減免制度の拡充を図った。放課後児童運営事業については、事業費の大半が児童の見守りに係る人件費であり、今後は、コスト面を考慮し、使用料について検討を行っていく。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・放課後児童クラブは保護者の就労支援を目的に運営しており、待機児童を出すことなく事業を進めることができ、また、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか感染対策を図りながら、閉所したことにより、保護者の経済活動を促すうえでとても有効である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●核家族化や共働き家庭の増加に対応し、保護者の就労時に小学生を安心して預けられることは最も重要なことである。その受け皿となる放課後児童クラブの設置は必要不可欠なものであり、適正な指導員の配置等を行い、子どもの安心・安全な環境を提供することができた。 ●年度末に、保護者アンケートを取得して利用の満足度を図っている。「子どもは、放課後児童クラブで楽しく過ごしている。」の回答が最も高い評価であった。また、指導員の見守りや対応等でも好評価を得ることができた。		
これまでの課題及び今後の方向性	●放課後児童クラブは、保護者の就労支援として、保護者が安心して就労できるよう、児童を安全に見守っている事業であるが、年々低学年（1年から3年まで）の利用数が増加しており、特に1年生の利用児童は市内の1年生全児童数の約半数近くあり、児童の利用人数に対応した支援の単位の確保を行うため、指導員の確保等が喫緊の課題となっている。今後は、職員の研修等への参加を積極的に行い、指導員の資質の向上を図りたい。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	保護者が安心して就労できるよう、放課後児童クラブで、子どもが安心・安全に過ごせる環境を整えていく。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☑ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	少年補導センター運営事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	610106	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230	頁
施策体系	施策コード	020201	施策名	健全育成体制を充実させる									
計画期間	開始年度	昭和47年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等	福知山市少年補導センター条例												
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	巡回指導などにより、青少年の非行防止と健全な生活を確保し、誰もが安全安心に暮らせる地域を目指す。				
対象者	青少年、市民	対象者数	76,964	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	・街頭補導活動（官公庁の閉庁日を除く毎日）、特別補導活動（暴走族対策）（3回/年）、列車補導活動（1回/年）、社会環境浄化活動（1回/年）、啓発活動（3回/年） ・相談活動 ・補導委員研修				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
報酬	72	少年補導センター運営委員報酬
報償費	830	少年補導委員街頭補導活動出務謝礼
需用費	164	活動冊子作製、少年補導委員腕章・委員証・ベスト、消耗品費（非行防止シール、パウチフィルム 他）
役務費	43	郵送料
使用料及び賃借料	1	福知山市役所来庁者駐車場 定期券（パスカード）利用料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,325	1,310	1,242	1,239
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		1,325	1,310	1,242	1,239
予算財源内訳	① 一般財源	1,325	1,310	1,242	1,239
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 85	0	0	0
	② 配当予算	1,240	1,310	0	0
	③ 執行額	1,237	1,110	0	0
	④ 執行率	99.7%	84.7%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.14 / 1.21	0.05 / 1.19	0.05 / 1.19	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	4,145	3,375	3,375	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		5,382	4,485	3,375	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
注意助言件数（少年補導委員）	人	48 / 0	13 / 0	6 / 0	/ 0	0
					/	

活動実績（アウトプット）実績／計画

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
少年補導活動回数（少年補導委員）	回	289 / 300	304 / 300	244 / 300	/ 300	300
単位あたりコスト		4.4	4.1	4.5		
年間少年補導活動延べ人数（少年補導委員）	人	807 / 1000	767 / 900	830 / 900	/ 850	850
単位あたりコスト		1.6	1.6	1.3		

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	ほぼ毎日活動される街頭補導活動は、犯罪の未然防止活動として必要性が高い。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	街頭補導活動は、ほぼ毎日昼間・夜間に3～5人体制で取り組んでおり、適時・適地に効率的に実施している。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	●成果目標については、注意助言の件数は年々減少しているが表面に見えない非行等が増加傾向にあると思われ、新たな啓発方法を検討する必要がある。 ●令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5・6月の補導活動を中止した。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●各ブロックの補導委員により地域の状況に応じた活動が展開されている。 ●街頭補導では交通ルール違反、喫煙など身近な指導から、非行の芽を摘む活動が実践できている。		
これまでの課題及び今後の方向性	●少年補導委員は青少年の健全育成と非行防止のため、『愛の一声』運動の街頭補導を行っているが、青少年の動向の現状認識、把握を進め、情報提供や研修会の開催など少年補導委員の意識の向上を図ることで、日々の補導活動を充実させたい。 ●福知山市中心地域の補導活動だけでなく、周辺地域（中学校区ごと）などの補導活動の工夫と強化。 ●組織拡大による補導委員相互の連携強化と補導委員の育成。 ●相談活動や環境浄化活動の充実と保護司会等の関係機関との連携強化。 ●『補導だより』は、市内全小・中・高等学校及び保護者に配布するが、広報誌の内容充実に努めるとともに、日々の補導活動についても市民に啓発することで補導活動を周知したい。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●補導活動の成果により、日中及び夜間の補導声掛け件数は、毎年減少している。 今後も補導委員の協力を得て、青少年の非行防止に努めていく。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　－　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　－　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	旧三岳山の家管理事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	610109	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230	頁
施策体系	施策コード	020103	施策名	生涯学習施設の整備と適切な維持管理をする									
計画期間	開始年度	平成14年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名	公共施設マネジメント実施計画							
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	民間事業者等の活用が求められる。 その間の施設の適正な維持管理を行う。				
対象者	―	対象者数	―	単位あたりコスト	
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	三岳地区自治会（施設周辺除草作業）				
事業概要（箇条書き）	・H18年から指定管理者制度により運営してきたが、H26年10月の指定管理者の募集に際して応募が無く、H27.3月をもって施設の運営を停止、閉館（条例廃止・普通財産）した。 ・施設の活用方法が決定するまで、必要最小限の経費をもって、施設の適正な維持管理を行う。				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
役務費	57	建物共済保険、廃棄料
委託料	150	施設周辺草刈業務
	0	
	0	
	0	

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	444	194	193	194
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		444	194	193	194
予算財源内訳	① 一般財源	430	180	179	180
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	14	14	14	14
決算情報	① 流充用額	45	13	0	0
	② 配当予算	489	207	0	0
	③ 執行額	489	207	0	0
	④ 執行率	100.0%	100.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.13 / 0.00	0.15 / 0.00	0.15 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	1,040	1,200	1,200	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		1,529	1,407	1,200	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	電柱占用料（旧三岳青少年山の家）	種類	教育使用料	実績金額	14	決算付属資料	12	頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
			/	/	/	
			/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
管理(周辺除草)	回	2/2	2 / 2	2 / 2	/ 2	2
単位あたりコスト		222.5	244.5	103.5		
			/	/	/	
単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	△	・施設の活用方法が決定するまでの、施設維持管理は必要である。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・施設の維持管理に必要最小限のコストで管理を行っている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	△	・施設の活用方法が決定するまでの施設維持管理事業であり、期限を区切る必要がある。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●民間事業者等による施設活用等について、関係部署と協議を進めているが、方向性が決定するまでは、必要最小限の維持管理を実施している。 ●本事業は施設の活用方法が決定するまでの施設の適正な維持管理を行うものであるため、定性的評価とする。 ●令和元年度末で電力・水道を解約した。 ●令和2年度に利活用について1件問合せ・提案があったが、関係課と協議の結果、その後の発展には至らなかった。		
これまでの課題及び今後の方向性	●活用について、各関係課、関係機関と協議 ●活用をする場合の利用内容の調整（現段階では、土地は賃借、建物は移譲する方針が出ている。） ●施設の老朽化が進行しているため、利活用の可否を判断し、施設の解体等を検討する必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●一定の方向性が確定するまで、周辺の環境整備は施設の維持管理上必要不可欠である。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☑ 他事業へ統合　（統合先事業名：　生涯学習一般管理事業　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	こだま教育推進事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	610114	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230	頁
施策体系	施策コード	020201	施策名	健全育成体制を充実させる									
計画期間	開始年度	昭和58年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☑ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	本市の社会教育の重点に基づき、市民全体の人間力の向上、特に次代を担う青少年の健全育成を目指して、家庭・学校・地域社会の連携を大切にして、市民総がかり・社会総ぐるみで活動を展開する。				
対象者	市民	対象者数	76,584	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	○掲示教育の推進：各自治会単位でこだま教育推進員を委嘱し、市内349箇所で月2回掲示文を板書している。 ○啓発紙の発行：家族だんらんの日作文集を市内全戸配布 ○青少年思いやり地域活動事業：青少年の学校外活動の推進や家庭と地域における教育力の向上を図る取組を各地区公民館を中心に実施 ○「心の教育」実践活動：教育行政、公民館、学校、関係団体による「心の教育」実践活動中央本部を設置し、各構成員が次代を担う青少年を健全に育成する必要性を認識するとともに、市民全体の共通認識となるよう「心の教育」実践活動の推進を図る。				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
需用費	868	作文集印刷製本費（全戸配布）、掲示黒板購入 他
役務費	88	郵送料、往復はがき代
負担金補助及び交付金	854	心の教育実践活動交付金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,598	1,579	1,718	1,690
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		1,598	1,579	1,718	1,690
予算財源内訳	① 一般財源	799	0	0	0
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	799	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	1,579	1,718	1,690
決算情報	① 流充用額	208	317	0	0
	② 配当予算	1,806	1,896	0	0
	③ 執行額	1,785	1,810	0	0
	④ 執行率	98.8%	95.5%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.32 / 0.40	0.15 / 0.42	0.15 / 0.42	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	3,560	2,250	2,250	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		5,345	4,060	2,250	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	こだま教育推進事業基金繰入	種類	基金繰入金	実績金額	1,548	決算付属資料	40	頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	教育推進員による掲示活動	回	24/ 24	24 / 24	24 / 24	/ 24	24
	「心の教育」実践活動の参加人数（あいさつ運動は除く）	人	22435/23000	27377 / 23000	23784 / 23000	/ 20000	20000

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	掲示箇所数	人/箇所	348/351	352 / 349	345 / 349	/ 345	345
	単位あたりコスト		4.7	5.1	5.2		
	「心の教育」実践活動実施ブロック数	ブロック	10/10	10 / 10	10 / 10	/ 10	10
	単位あたりコスト		164.2	178.5	181.0		

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・いじめ問題、地域の希薄化など現代的社会問題や課題を把握し、その解決に向け家庭・学校・地域が連携して取り組む事業として必要である。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・教育推進員（345名）は、ボランティアで実施。また、「心の教育」実践活動や青少年思いやり活動についても、活動における人件費的な経費までは支援を行っておらず、各団体の協力で実施。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	△	・成果目標については、事業規模から経験的に期待される目標としており、十分に理にかなったものとは言い難い。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●家庭・学校・地域社会が連携し、「あいさつ運動」、「家族だんらんの日」、「掲示教育活動」、「青少年学校外活動」など様々な活動を多くの地域で実施し、活動参加者も多くの方が関わっていることから、これらの活動が各地域で定着し、それぞれの地域実態にあった取り組みが進められていることは評価できる。 ●掲示教育は地域づくり、環境、人権等の啓発文を全市約350箇所で掲示するもので、市民に教育のまちづくりを地域一丸での見守りの醸成を進めることができている。		
これまでの課題及び今後の方向性	●地域住民と児童・生徒の交流は図れており、今後、地域による学校支援の仕組みを研究し、協働活動を推進する。 ●今後も継続して、少年を取り巻く現状を把握し、課題解決に向け、各関係機関と連携を図る。 ●こだま教育掲示事業に関しては、高齢化に伴う掲示教育推進員の確保が課題である。 ●「こだま教育」「心の教育」等、名称の多様化とともに活動と事業内容が煩雑となっており、国の推進する地域と学校、行政が連携する「地域学校協働活動」への移行の検討を進める。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●「家族だんらんの日」について、学校、関係諸団体、市職員、企業等への啓発を更に充実させ、全市的な取組となるように努める。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	旧勤労青少年ホーム施設管理事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	610115	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230	頁
施策体系	施策コード	020103	施策名	生涯学習施設の整備と適切な維持管理をする									
計画期間	開始年度	昭和50年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名	公共施設マネジメント実施計画							
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	教育施設及び行政施設の一部として適正な維持管理を行う (けやき広場、文化・スポーツ振興課文化財保護係の整理事務所)				
対象者	教育相談(けやき広場等)利用者、社会教育団体	対象者数	80	単位あたりコスト	36.3
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	消防設備点検(西日本SSC)、ガス空調機器保守点検(福知山都市ガス)				
事業概要（箇条書き）	勤労青少年ホームの設置目的は達成されたとして平成25年度で閉鎖。平成26年度から旧勤労青少年ホーム施設管理事業に移行。施設の適正な維持管理を行う。 文化財保護事務、けやき広場(適応指導教室)、社会教育関係(婦人会、保護司会)関連の施設として運営している。文化財保護事務は平成30年度からは本庁で実施(整理作業は継続)。				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績(R2)	主な業務内容
需用費	1,825	光熱水費、消耗品費(蛍光灯 他)、誘導灯修繕
役務費	19	建物共済、ごみ廃棄料
委託料	311	ガス空調機器保守点検、消防設備点検
備品購入費	25	消火器

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1(評価前年度)	R2(評価年度)	R3(本年度)	R4(要求年度)
予算情報	① 当初予算	2,668	2,136	2,125	2,100
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計(①～③)		2,668	2,136	2,125	2,100
予算財源内訳	① 一般財源	2,668	2,136	2,125	2,100
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 37	45	0	0
	② 配当予算	2,631	2,181	0	0
	③ 執行額	2,315	2,181	0	0
	④ 執行率	88.0%	100.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員 / 嘱託職員）	0.09 / 0.00	0.09 / 0.00	0.09 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	720	720	720	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		3,035	2,901	720	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	教育相談延べ件数	件	1220/1200	1220 / 1200	1070 / 1200	/ 1200	1200

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	維持管理保守(周辺除草・点検)	回	16/20	7 / 7	7 / 7	/ 7	7
	単位あたりコスト		160.9	330.7	311.6		
			/	/	/	/	/
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・耐震工事が施されておらず、公共施設マネジメントでは、除却対象物となっている。しかし、現在、通級指導教室や文化・スポーツ振興課、社会教育団体が使用しており、各部署等の移転先が確定するまで、適正な施設管理を行う。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・必要最小限の維持管理費で実施
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・現在の施設の使用用途や利用状況に応じた適切な維持管理を行っている。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●社会教育、学校教育の推進と振興を進める施設の利用目的に沿った管理を適正に行っている。（定性的評価） ●現在の施設の使用用途に合わせて、令和2年度は避難誘導灯の配置等を消防設備点検時に見直し、設置個数を削減した。今後も用途や利用状況に応じた適切な維持管理を行い、経費節減に努める。		
これまでの課題及び今後の方向性	●平成25年度に勤労青少年ホームにかかる条例を廃止し、現在、教育施設として管理している。本施設は、設置から43年経過し、老朽化が進み毎年修繕費が増加傾向となっている。 ●公共施設マネジメント計画に応じて、施設の廃止、解体と跡地利用等の検討。 ●けやき広場、文化財保護係、市子連物品、保護司会、婦人会等社会教育団体の移転先の確保。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●公共施設マネジメント計画の実施内容に即して、その方法が確定するまでの施設の維持管理に努める。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	青少年健全育成事業											
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子			
会計情報	事業コード	610204	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230 頁
施策体系	施策コード	020201	施策名	健全育成体制を充実させる								
計画期間	開始年度	昭和28年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名							
根拠法令等	地方青少年問題協議会法、福知山市青少年問題協議会条例、福知山地区更生保護協会活動補助金交付要綱											
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）											
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合											
関連事業												

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	家庭と地域・学校が連携しながら、市民総がかりで次代を担う青少年が心豊かに安心して暮らせる環境づくりに努めるとともに、社会の一員として地域活動やボランティア活動に積極的に参加できる人材を育成する。				
対象者	市の将来を担う子ども達	対象者数	6,293	単位あたりコスト	0.4
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☑ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	青少年問題協議会の運営（年1回） 青少年健全育成大会の開催（年1回） 「青少年を非行から守り健全に育てる運動」等の啓発活動（年1回） 啓発用懸垂幕の掲載				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
報酬	88	青少年問題協議会委員報酬
需用費	19	表彰用物品、賞状用紙
役務費	46	屋内壁面公告掲載料、筆耕料
負担金補助及び交付金	112	更生保護協会活動補助金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	343	288	406	389
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		343	288	406	389
予算財源内訳	① 一般財源	343	288	406	389
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 32	0	0	0
	② 配当予算	311	288	0	0
	③ 執行額	269	265	0	0
	④ 執行率	86.6%	92.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.29 / 0.06	0.29 / 0.04	0.29 / 0.04	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	2,470	2,420	2,420	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		2,739	2,685	2,420	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	健全育成大会参加者数	人	（中止）	120 / 0	中止 / 150	/ 150	150

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	健全育成大会開催	回	0/1（中止）	1 / 1	0 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		0.0	269.3			
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・市民の力で次代を担う青少年の健全育成は自治体の大きな課題であり、必要性は高い。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・コスト的に活動内容にあった運営となっている。 ・表彰等により、市民への啓発等が行えている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、青少年健全育成大会は開催中止としたが、従来より手法を替えて、協議（書面）や啓発等を行った。従来の大会では保護者を対象に啓発を行っていたが、令和2年度は全小・中学生にSNSに関する啓発チラシ入りポケットティッシュを配布したり、福知山駅前に懸垂幕を掲示したりする等、市民に広く啓発を行うことができた。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、青少年問題協議会は書面決議にて実施、街頭啓発・青少年健全育成大会は中止とし、青少年健全育成活動推進者の表彰式のみ10月に実施した。 ●新たな試みとして青少年を対象とした啓発を行うため、夏休み前の全小・中学生にSNSに関する啓発チラシ入りポケットティッシュを配布した。また、市民や福知山駅周辺を利用する在勤・在学の方への啓発となるよう、更生保護協会と共催で啓発用懸垂幕を作成し、市民交流プラザふくちやまに3ヶ月間(7月～9月）掲載した。		
これまでの課題及び今後の方向性	●青少年を取り巻く問題は、日々変化しているため、常に現状を把握し、現状にあった課題・対応策を青少年問題協議会の意見を踏まえ啓発活動などを実施し、青少年の健全育成活動を促進する。 ●保護者を対象としたネットトラブル対策や薬物乱用の防止・根絶についての啓発を推進する。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●時代を担う青少年に係わる保護者・教職員・関係諸団体が一堂に会し、現代的課題等の解決や健全育成の重要性について共通理解し、学び合う場を保障するために事業を継続する。 ●2年連続で従来の青少年健全育成大会を実施できずにいるが（令和2年度：中止、令和3年度：規模縮小）、令和4年度の大会開催に向けて実施手法を検討する。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	成人式事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	610301	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230	頁
施策体系	施策コード	020201	施策名	健全育成体制を充実させる									
計画期間	開始年度	昭和26年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	青年が次代を担う者としての自覚を高め、社会の一員としての意識を養い、自己の確立に努めることを基本方針とし、その方針を具現化するために成人の日の前日に式典を挙行し、参集した新成人を祝い、激励する。次代を担う新成人を保護者、地域が認め、受入れ、大人の仲間として受け入れる。			
対象者	新成人・保護者・地域住民	対象者数	76,964	単位あたりコスト 0.1
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）			
委託先・実施主体等	(株)フォールズ(警備)、Crew・Solook(音響・照明)、(株)街装社(会場設営)、(株)森下建設			
事業概要（箇条書き）	成人式の開催 令和2年1月10日（日）開催　三段池公園総合体育館 出席者：576人 内容　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、式典内容を縮小して開催。 会場へは新成人のみ入場可とし、受付通路なども一方通行となるようコーンとコーンバーを配置した。 福知山高等学校放送部、府立工業高等学校吹奏楽部、福知山市合唱連盟、高校生ボランティアへは依頼はせず運営を行った。			

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
報償費	21	手話通訳謝礼
需用費	140	非接触式体温計、手提げ袋、消耗品（布額テープ他）、燃料代
役務費	81	看板書換料、郵送料
委託料	470	会場設営業務、音響・舞台照明業務、駐車場警備業務、駐車場除雪業務、固定ビデオ撮影及び動画編集業務
使用料及び賃借料	364	

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	943	884	861	1,319
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		943	884	861	1,319
予算財源内訳	① 一般財源	943	884	861	1,319
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 6	192	0	0
	② 配当予算	937	1,076	0	0
	③ 執行額	886	1,076	0	0
	④ 執行率	94.5%	100.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員 / 嘱託職員）	0.42 / 0.05	0.81 / 0.05	0.81 / 0.05	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	3,485	6,605	6,605	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		4,371	7,681	6,605	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
成果実績（アウトカム）実績／目標	出席者の割合	%	80.2 /100	84 / 100	76 / 100	/ 100	100

	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
活動実績（アウトプット）実績／計画	成人式開催	回	1/1	1 / 1	1 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		884.0	885.9	1076.0		
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・成人式は、全国的にも定着している事業であり必要。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・運営にあたっては、高校生ボランティアの募集、アトラクションも近隣高校に協力いただくなどコスト削減に努めている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・令和3年成人式においては、コロナ禍で開催の中止や延期についても検討されたが、関係部署と共に新型コロナウイルス完全拡大防止策を十分に行い、開催した。また、出席率についても、例年より少し下がったものの、対象の7割以上の出席者があり、概ね目標は達成できたと考える。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●平成18年度から対象者、関係者の増加に伴って三段池公園総合体育館で実施している。大きなトラブルもなく多くの対象者の参加を得て開催できたことは評価できる。 ●近年の記念品の持ち帰り状況や近隣市の実施状況を考慮して、平成29年度から記念品を廃止した。 ●令和2年度も、関係課との調整・指導を受けながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとり、成人式を開催することができた。 ●対象者の新成人と市議会議長、主催者のみの出席としたため、例年臨席していただいている来賓の方々にもメッセージの寄稿を依頼したところ、156人から寄せられ、思いのこもった新成人へのメッセージ集を作成することができた。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、式場への入場者を新成人のみとし、式典内容も一部縮小しての式となった。また、成人式会場内外が密にならないようレーンを区切って一方通行とした。 ●例年、工業高等学校吹奏楽部、福知山高等学校放送部、運営補助の高校生ボランティアの協力を得ていたが、今年度は依頼をしなかった。事前に市内6高等学校吹奏楽部の演奏映像の提供を依頼し、オープニング映像として随時放映した。形を変えて、学生の参画の場とすることが保障できた。		
これまでの課題及び今後の方向性	●継続的に事業実施を進め、新成人を祝うとともに激励し、大人としての自覚を促す。 ●市在住、出身、在勤の新成人が一同に介する機会であるので、若者の意識、考え方の聴取や市政PR等の場として活用されることを提案している。 ●令和4年4月1日から、成人年齢が18歳に引下げられるが、福知山市としては新成人を祝う対象を20歳とする方向である。今後どのように成人式をおこなっていくか、方針等も含め詳細を決定していく必要がある。 ●今後も新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとっての成人式になると考えられるため、引き続き関係課との連携を密にしていく必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●令和4年度より成人年齢が引き下げになることに伴い、今後の成人式のあり方や運営方法についても令和3年度内に確定していく。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☑ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	地域で支える「地域未来塾」開講事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	630210	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	230・232	頁
施策体系	施策コード	020202	施策名	健全育成活動を促進する									
計画期間	開始年度	平成27年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☑ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身についていなかったりする中学生に、教員OBや大学生など地域住民の協力による学習の場を提供し、学習習慣の確立と基礎学力の定着、義務教育終了時に必要な学力、高等学校等進学後に必要な学力の獲得を支援する。				
対象者	市立中学生	対象者数	1,947	単位あたりコスト	5.7
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	令和2年度実績 市内9ブロック、全市内市立中学校で実施　実施期間：9月下旬から2月下旬（週2回、各1時間） 主な実施教科：英語、数学、国語　開講日数：230日　受講生徒数：104人　学習支援員数：のべ90人				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	報償費	5,186	コーディネーター・学習支援員謝礼
	旅費	51	コーディネーター研修旅費
	需用費	677	消耗品（トナー、インク、ホワイトボード、非接触式温度計他）、教材代、灯油代　他
	役務費	115	コーディネーター・支援員傷害保険料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	6,533	6,463	6,094	6,040
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		6,533	6,463	6,094	6,040
予算財源内訳	① 一般財源	0	0	0	
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	4,257	3,000	2,840	2,810
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	2,276	3,463	3,254	3,230
決算情報	① 流充用額	24	△ 180	0	0
	② 配当予算	6,557	6,283	0	0
	③ 執行額	5,972	6,029	0	0
	④ 執行率	91.1%	96.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.52 / 0.00	0.63 / 0.00	0.63 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	4,160	5,040	5,040	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		10,132	11,069	5,040	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁
		地域で支える「地域未来塾」開講事業		教育費府補助金		3,391		32	
		地域で支える「地域未来塾」開講事業基金繰入		基金繰入金		2,400		40	

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	出席率	%	83/100	88 / 100	80.6 / 100	/ 100	100

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	開校数	校	9/9	9 / 9	9 / 9	/ 9	9
	単位あたりコスト		563.2	663.6	669.9		
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身についたりしていない中学生は、全国的にも大きな問題となっており、その中学生に対し、学習支援を行う必要性は高い。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・補助(国・府）制度の活用。学習支援員は、地域の方のボランティアで実施している。また、計画的に事業を進めるため、コーディネーターを中心に実施している。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・学習習慣の定着と学習意欲が高まっている。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●平成27年度に桃映地域をモデル事業として実施し、平成28年度には2地域（成和・六人部）を追加して3地域に、平成29年度はさらに2地域（南陵・日新）が加わって5地域に、平成30年度からは未実施であった4地域（川口、三和、大江、夜久野）を加え、市内全地域9地域にて実施。 ●生徒の出席率も高く、アンケート等においても家庭学習の時間が増えたという意見が聞かれた。また、学習指導員として参加する地域の方々からもやりがいを感じるとの意見を得ている。このことからも事務事業として高く評価できる。 ●地域の方々が学習支援などに協力いただいたことで、生徒が基本的な生活習慣や規範意識を身につけ、地域全体で育てられている実感を感じる場を提供することができた。		
これまでの課題及び今後の方向性	●次年度も引き続き、全中学校区（9地域）で開催する。 ●今後も地域の方に未来塾への趣旨や取組について理解を深めていただき、協力を得られるよう（学習支援員）努めていく。 ●市内9中学校で未来塾を開講してから3年が経ったため、事務局、コーディネーター、学校で今一度未来塾の主旨を確かめ、これまでの課題を解決できるよう検討する必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●令和3年度に協力いただいている学習支援員の約9割が2年目以上となってきており、今一度事業の主旨を共有・確認し、安定した事業運営の継続が必要である。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	社会教育委員会議運営事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	630232	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	232	頁
施策体系	施策コード	020101	施策名	生涯学習を充実させる									
計画期間	開始年度	昭和59年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等	社会教育法、福知山市社会教育委員の定数等に関する条例、福知山市社会教育委員の会議運営規則												
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	今日的な課題等の調査研究を踏まえ、社会教育に関する答申や提言を教育委員会に対して行う。				
対象者	福知山市社会教育委員	対象者数	8	単位あたりコスト	312.3
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☑ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	社会教育委員会議の開催（12回/年程度） 令和3年度提言提出（2年に1回程度） 中丹・京都・全国の研修会等に参加				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	報酬	304	委員報酬
	需用費	9	事務用品、冊子(社教情報)購入費
	負担金補助及び交付金	25	中丹・府分担金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	891	551	865	598
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		891	551	865	598
予算財源内訳	① 一般財源	891	551	865	598
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	24	△ 2	0	0
	② 配当予算	915	549	0	0
	③ 執行額	897	338	0	0
	④ 執行率	98.0%	61.6%		
人概工算	① 従事職員数（正職員 / 嘱託職員）	0.53 / 0.00	0.27 / 0.00	0.27 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	4,240	2,160	2,160	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		5,137	2,498	2,160	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	提言実施数	回		1 / 1	/	/ 1	隔年ごとに1

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	会議開催回数	回	12/12	15 / 12	5 / 6	/ 12	12
	単位あたりコスト		48.4	59.8	67.6		
			/	/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・社会教育法に基づく設置であり、教育委員会に答申や提言をする機関として必要。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・委員定数は、条例に基づき10人以内（第19期は8人に委嘱）で、運営を行っている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・今日的な課題等の調査研究を踏まえ、社会教育に関する答申や提言を教育委員会に対して2年に1度行っていただき、市の社会教育・生涯学習の推進事業に反映させている。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●令和2年度は、第19期社会教育委員として8名（市民公募1名含む）に委嘱し、5回の会議を開催した。		
これまでの課題及び今後の方向性	●社会教育・生涯学習に対する市民の意識の深化、学校・地域との連携、協働等について、広く知見を得た委員の確保を進める。社会教育委員については、社会教育に関心と熱意のある人材の確保が大切である。 ●提言書以外にも随時、コロナ禍における福知山市の社会教育についてなど、今後の社会状況に応じた社会教育の在り方や現代的課題の解決に向けた具体例の提案についても協議検討を行う場とし、市民が心豊かで充実した生活を送り、「共に幸せを生きる」社会の実現を目指す。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●本市の社会教育を充実、発展させるために必要不可欠な事業であるので、継続し実施する。 ●令和４年度は第２０期社会教育委員の委嘱開始年となるため、委員の公募を行い、さらなる会議等の充実に向けて人材確保に努める。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☑ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	夜久野町生涯学習センター事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	630234	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	232	頁
施策体系	施策コード	020103	施策名	生涯学習施設の整備と適切な維持管理をする									
計画期間	開始年度	平成17年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	夜久野ふれあいプラザのうち、生涯学習センター機能の部分の管理運営を行い、市民の利用に供し、生涯学習の推進と地域の活性化を推進する				
対象者	市民	対象者数	76,964	単位あたりコスト	0.2
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	(株)橋田舞台設備(舞台)、(株)荏原製作所給水ポンプユニット)、他6件				
事業概要（箇条書き）	・舞台音響及び照明保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・防火対象物定期点検業務 ・自家用電気工作物保安管理業務 ・舞台吊物設備点検業務 ・ガス空調設備保守点検業務 ・給水ポンプユニット設備保守点検業務 ・自動扉保守点検業務				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
報酬	1,965	夜久野町生涯学習センター臨時職員報酬2名
職員手当等	132	夜久野町生涯学習センター臨時職員職員手当2名
需用費	4,826	消耗品費（事務用品、洗剤、電球他）、燃料費、光熱水費、施設修繕費 他
役務費	245	電話代、建物損害共済金、ピアノ調律料
委託料	2,782	自家用電気工作物保守管理点検業務、警備業務、建築設備定期報告業務、給水ポンプユニット設備点検業務

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	12,067	11,502	11,806	12,442
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		12,067	11,502	11,806	12,442
予算財源内訳	① 一般財源	10,656	10,535	10,841	11,512
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	1,411	967	965	930
決算情報	① 流充用額	248	△ 724	0	0
	② 配当予算	12,315	10,778	0	0
	③ 執行額	10,756	9,951	0	0
	④ 執行率	87.3%	92.3%		
人概工算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.18 / 0.00	0.40 / 0.00	0.40 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	1,440	3,200	3,200	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		12,196	13,151	3,200	0

主な利用特財（N－1年度実績値）

特財名称	種類	実績金額	決算付属資料	頁
夜久野町生涯学習センター使用料	教育使用料	305	12	
自動販売機設置貸付収入	財産貸付収入	76	36	
夜久野町生涯学習センター（自動販売機等電気代等）	雑入	52	46	

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
利用者数	人	18834/16000	12977 / 16000	7029 / 16000	/ 16000	16000

活動実績（アウトプット）実績／計画

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
開館日数	日	359/359	360 / 360	359 / 359	/ 359	359
単位あたりコスト		31.5	29.9	27.7		
単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・市民の生涯学習の推進と、地域の活性化を図る地域拠点として活用をされている。今後、施設管理等の一部を民間業者や地域協議会などに委託することは可能であるが、コストなど比較検証が必要である。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・設備の管理委託等は長期継続契約を行いコストの削減に努めている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・成果目標については、事業規模から経験的に期待される目標としており、十分に理にかなったものとは言い難いものの、利用者は増加傾向にある。ただし、令和元年度は施設の屋根改修による利用制限（10月から1月）、令和2年度はコロナ感染拡大防止による休館（4月18日から5月6日）や利用者自身による自粛により利用者が減少している。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●最新の設備を備えたプラザは市民の研修の場として広く活用されている。特に文化ホールは高い利便性と適切な規模（299席）で好評である。 ●市民の文化的活動の推進、集会施設として適正な利用が図れるよう、維持管理・保守管理に努めている。 ●令和2年度の利用日数は、252日/359日の利用があり、新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言や外出自粛などから68.9%の利用率となり、昨年度の利用率を下回っている（生涯学習センターとしては359日開館しているが、コロナにより貸館が休館となる影響があった。施設の貸出不可日は年間19日。また、使用人数の制限と閉館時間の繰り上げを概ね3ヵ月続いたことも影響している）。		
これまでの課題及び今後の方向性	●美観・木質を大切にした建物であるが、建築後15年が経過し、設備等に次々と不具合が生じており、交換修繕などで今後の維持管理経費の増加が懸念される。点検・状況確認を行い、計画的及び優先順位を見極めつつ修繕・改修工事を立案実施する。 ●支所機能に加え住民の文化・保健福祉複合機能を有しており、管理運営について生涯学習課の所管が適当であるか、再検討が必要である。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	□ 事業の見直し □ 統合／組換 □ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●市民の生涯学習の拠点となるよう、維持管理に努める。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　□ 廃止/休止　□ 予算拡充　□ 予算縮減 □ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　□ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	婦人教育事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課							所属長	浅田 久子			
会計情報	事業コード	630235	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	232	頁
施策体系	施策コード	020101	施策名	生涯学習を充実させる									
計画期間	開始年度	昭和21年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等	福知山市男女共同参画推進条例												
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	婦人会活動を通して地域の絆を深め、地域力再生の要となるような実践活動を進める中で、活力ある地域社会づくりを目指す。				
対象者	婦人会会員	対象者数	120	単位あたりコスト	13.0
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	福知山市連合婦人会を通じた研修（生涯学習講座）支援 母の日大会開催、ブロック別リーダー研修会、生涯学習講座、京都女性の健康フェスティバル参加、 各種京都府連行事・研修会等参加				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	負担金補助及び交付金	235	共済事業(生涯学習講座・ブロック別研修会)負担金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	357	356	351	351
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		357	356	351	351
予算財源内訳	① 一般財源	357	356	351	351
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	15	0	0	0
	② 配当予算	372	356	0	0
	③ 執行額	372	235	0	0
	④ 執行率	100.0%	66.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.05 / 0.50	0.04 / 0.40	0.04 / 0.40	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	1,650	1,320	1,320	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		2,022	1,555	1,320	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	市民参加者数	人	305	300 / 300	251 / 300	/ 300	300

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	活動回数	回	10/8	8 / 8	6 / 8	/ 8	8
	単位あたりコスト		40.1	46.5	39.2		
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・女性の生涯学習及び人権研修の支援として必要である。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・自己負担（会費、参加費等）しながら活動している。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・成果目標については、事業規模から経験的に期待される目標としているが、十分に理にかなったものとは言い難い。 ・女性の社会教育への参加、学習機会の創造で有効な活動を支援出来ている。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●地域に根ざした具体的な実践活動、介護や環境、学習や地域力再生につながるボランティア活動を実践している。また、防災活動や国際交流さらに小学校・中学校での食育体験活動にも熱心に取り組まれていることは女性の学習機会を促進する点でも評価できる。 ●女性団体として市内外の各種事業に携わり、各市民主体の活動を推進されている。市としても継続的な支援を進め、事業運営を進める。		
これまでの課題及び今後の方向性	●自治会単位での婦人会が減少し、新規会員の確保が難しく、会員の減少が著しい。 ●市内の女性を代表する団体として市連合婦人会の存在は重要であり、引き続き意見交流を進め、事業のあり方や婦人会活動の方向性、女性に対する生涯学習活動などについて検討し、必要な見直しを行う。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●婦人会活動を地域活性化の礎としたり、女性の生涯学習活動を充実させたりする。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	PTA連絡協議会共催事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課							所属長	浅田 久子			
会計情報	事業コード	630237	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	232	頁
施策体系	施策コード	020101	施策名	生涯学習を充実させる									
計画期間	開始年度	昭和46年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	福知山市PTA連絡協議会のリーダーとして教養を高め、資質の向上を図る機会を通じ、本市PTA活動の推進に寄与する。福知山市PTA連絡協議会をもって各単Pの事業交流等の情報交換を図る。				
対象者	各市立幼稚園・小・中学校PTA会員	対象者数	5,458	単位あたりコスト	0.4
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	市P幹部研修会、中丹P指導者研修会、府PTA研究大会、近畿P研究大会、市P人権研修				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	負担金補助及び交付金	34	研修会負担金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	105	105	112	112
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		105	105	112	112
予算財源内訳	① 一般財源	105	105	112	112
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	0	0	0	0
	② 配当予算	105	105	0	0
	③ 執行額	93	34	0	0
	④ 執行率	88.7%	32.4%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.05 / 0.70	0.02 / 0.88	0.02 / 0.88	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	2,150	2,360	2,360	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		2,243	2,394	2,360	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	研修会・大会等参加者数(延べ)	人	1153/1700	1476 / 1700	255 / 1000	/ 700	700

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	事業開催数	回	17/16	16 / 16	7 / 16	/ 16	16
	単位あたりコスト		2.8	5.8	4.9		
				/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・各PTA活動を交流しあい指導者の力量を高めることは、各保護者としての成長のために必要である。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・受益者負担として各単位PTAから負担金を徴収している。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・PTA会員数の減少及び事業の見直し等により、実態に応じた設定とした。 ・福知山市PTA連絡協議会のリーダー育成、質の向上を図る機会として、本市PTA活動推進に寄与している。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	・コロナ禍により、年間事業計画を変更・中止せざるを得ない状況になり、参加者数も減少したが、開催した研修会（府PTA連絡協議会代表者会議及び幹部研修会、市PTA人権教育研修会)では、会員相互の研修や交流を深め、家庭の教育力向上に資することができており、評価できる。また、市の各種関係機関に係わって役員として参加し、保護者の立場からの意見を反映させている。		
これまでの課題及び今後の方向性	・引き続き、「家族だんらんの日」の普及等を通して、地域・家庭をあげての教育力の向上につながるような取組を進めていく。 ・研修など活動内容について、保護者の関心が高い公立大学や地域防災研究センターの視察研修、由良川治水対策の視察研修なども検討し、本市の特色をたたいやすいような工夫をする。 ・少子高齢化により、PTAの担い手確保が困難になりつつある学校も出てきている。コロナ禍で従前の活動の見直しが進む中、本市においても未来につなぐための持続可能なPTA活動について検討する必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●教育の基礎である家庭教育を担う保護者に対しての支援、連絡体制の強化に加え、「親育て」についてもさらに重点を置き、研修を深める場を提供する。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	生涯学習一般管理事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	630240	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	232	頁
施策体系	施策コード	020101	施策名	生涯学習を充実させる									
計画期間	開始年度	平成9年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☑ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	生涯学習課の事務を円滑に行う				
対象者		対象者数		単位あたりコスト	
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	市民対応、議会対応、課内調整など課の庶務、予算にかかる事務 社会教育・生涯学習に関する社会教育事業の後援、福知山市生涯学習まちづくり出前講座の実施に係る計画等 事務用品の購入や維持管理				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
旅費	25	職員旅費（社会教育研究協議会、地域学校協働活動推進委員会、人権教育指導者研修会）
需用費	361	消耗品費（事務用品、用紙、消毒用物品他）、印刷製本代（社会教育事業のまとめ、社会教育の重点）
役務費	463	電話代、郵送料
使用料及び賃借料	379	複写機使用料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,482	1,380	1,305	1,544
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		1,482	1,380	1,305	1,544
予算財源内訳	① 一般財源	1,482	1,380	1,305	1,544
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 22	△ 152	0	0
	② 配当予算	1,460	1,228	0	0
	③ 執行額	1,253	1,228	0	0
	④ 執行率	85.8%	100.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.87 / 0.00	0.70 / 0.00	0.70 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	6,960	5,600	5,600	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		8,213	6,828	5,600	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
まちづくり出前講座実施回数	回			8 / 12	/ 12	24

活動実績（アウトプット）実績／計画

指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
生涯学習課事務事業数	事業数	92/90	50 / 50	50 / 50	/ 50	50
単位あたりコスト		16.8	25.1	24.6		
			/	/	/	
単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・課事業を進める上で必要な事務的経費及び関係各課、団体等との連絡調整、庶務的経費として必要である。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・事務用品等は、一括して発注することで、在庫管理と安価な物品調達を行っている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・課内全般の庶務や、市民サービス向上に有効的である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	・生涯学習課事業の事務的経費として適切な執行を行っている。事務に係わる用品等は、計画的な調達と在庫管理で、無駄な購入のないように実施している。 遅滞ない事務執行により、適切な市民サービスを提供できた(定性的評価)ことにより、社会教育の重点に基づき、福知山市民の生涯学習を豊かにするための事業を進めることができ、共に幸せを行きる地域社会を支える一環を担うことができたと考える。		
これまでの課題及び今後の方向性	・スクラップ＆ビルドを心がけ、事業統合等を検討しながら市民サービスの向上に努める。また、生涯学習社会の実現に向け、学校教育と社会教育の連携・融合の視点を大切にしながら人がつながる地域づくりを進める事業を展開する。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●福知山市の社会教育の更なる充実・発展のために、R4年度は社会教育主事講習を1名受講させる。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☑ 他事業を統合　（統合事業名：　旧三岳山の家管理事業　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	教育文化会館管理運営事業											
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課					所属長	浅田 久子				
会計情報	事業コード	630261	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	232 頁
施策体系	施策コード	020103	施策名	生涯学習施設の整備と適切な維持管理をする								
計画期間	開始年度	平成18年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名							
根拠法令等												
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）											
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合											
関連事業												

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	夜久野町教育文化会館、教育文化会館グラウンド、夜久野町文化コミュニティーセンターの管理運営を行う				
対象者	市民	対象者数	76,964	単位あたりコスト	0.0
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	教育文化関連施設の管理運営 （関連施設の土地は京都府から借用、教育文化会館は京都府から財産使用許可を受けている）				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	需用費	753	光熱水費、燃料代、施設修繕
	役務費	10	建物損害共済分担金
	委託料	22	除雪業務
	使用料及び賃借料	895	土地借上料

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	1,074	1,092	1,063	1,526
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		1,074	1,092	1,063	1,526
予算財源内訳	① 一般財源	914	959	934	1,457
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	160	133	129	69
決算情報	① 流充用額	12	595	0	0
	② 配当予算	1,086	1,687	0	0
	③ 執行額	1,069	1,681	0	0
	④ 執行率	98.5%	99.6%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.12 / 0.00	0.15 / 0.00	0.15 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	960	1,200	1,200	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		2,029	2,881	1,200	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		
		教育文化会館グラウンド使用料		教育使用料		57		12	頁
		文化コミュニティーセンター使用料		教育使用料		34		12	
		夜久野町教育文化会館（公衆電話設置等手数料）		雑入		2		46	

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	施設利用者数	人	8434/8000	5266 / 8000	3428 / 8000	/ 8000	8000
				/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	土地・建物借り上げ	式	1/1	1 / 1	1 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		1077.0	1068.9	1681.0		
				/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・グラウンドの利用は、非常に多く、市民や社会ニーズを的確に捉えた事業であり必要。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・管理運営は、隣接する夜久野町生涯学習センターで一元的に行っている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	△	・成果目標については、事業規模から経験的に期待される目標としており、十分に理にかなったものとは言い難い。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●施設の適正な利活用が図れるよう、維持管理・施設修繕を進めた。 ●グラウンドの利用に関しては、旧市内エリアの市民の方々からの利用も増えている。 ●令和2年度に関して、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言や外出自粛などから、グラウンドの使用が、近年に比べ少なくなったものと思われる。		
これまでの課題及び今後の方向性	●教育文化会館は有償利用がないため、周辺施設の統廃合とあわせて条例の見直し等を検討する。 ●グラウンドの利用は多いが、文化コミュニティーセンターの利用が減少しているため状況分析し、今後の運営方法を検討する。 ●土地は京都府から有償貸与（令和2～3年度、2か年）、建物は京都府から教育財産使用許可申請を行い、許可を受けている（毎年度）。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●市民の利用が拡大しているグラウンドについて、引き続き維持管理に努める。 ●教育文化会館については、その利活用について関係課と調整し、確定させる。 【平成30年度棚卸しによる見直し状況】 ●京都府とは当該土地を令和3年度を目処に市有財産と等価交換する方向で他部署を含め調整を進めている。 ●交換契約が成立した場合は、アセットマネジメントの観点からも活用方法を検討する。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☑ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	和久市公園管理事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課							所属長	浅田 久子			
会計情報	事業コード	650361	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算付属資料	236	頁
施策体系	施策コード	020101	施策名	生涯学習を充実させる									
計画期間	開始年度	平成23年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	和久市公園の利用者の安全性・利便性を確保する。				
対象者	市民	対象者数	76,964	単位あたりコスト	0.0
実施方法	☑ 直接実施 ☑ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等	和久市町自治会（清掃）、（一）都市緑化協会（遊具点検）				
事業概要（箇条書き）	和久市公園の管理運営 ・草刈業務 ・樹木剪定、伐採業務 ・遊具定期点検				

主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
	需用費	17	遊具施設修繕
	委託料	107	公園整備等業務、遊具定期点検業務

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	108	109	108	107
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		108	109	108	107
予算財源内訳	① 一般財源	107	108	107	106
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	1	1	1	1
決算情報	① 流充用額	1	15	0	0
	② 配当予算	109	124	0	0
	③ 執行額	109	124	0	0
	④ 執行率	100.0%	100.0%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.04 / 0.00	0.07 / 0.00	0.07 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	320	560	560	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		429	684	560	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称	電柱占用料（和久市公園）	種類	教育使用料	実績金額	1	決算付属資料	12	頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
				/	/	/	
				/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	維持管理(清掃・草刈他)	回	12/12	4 / 4	4 / 4	/ 4	4
	単位あたりコスト		9.0	27.2	31.0		
				/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・市が管理する公園であり、適正に管理する必要がある。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・和久市自治会に草刈業務等を委託し、安価で行っている。
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	△	・公園の適正な管理を行う事業であり、活動及び成果目標を設定するのが困難である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	【定性的評価】 ●地域住民が憩える場として、公園の適正な維持管理を行うことができた。 ●遊具点検で指摘があった遊具を修繕し、利用者の安心・安全を確保することができた。		
これまでの課題及び今後の方向性	●地域の公園として地元で愛護してもらえるよう、地元自治会と連携して管理する必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●利用者の安全性・利便性を確保するため、引き続き維持管理を行う。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☑ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）

福知山市 令和３年度事務事業評価シート

（単位：千円）

Ⅰ 事業属性

事業名	地区公民館育成事業												
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課							所属長	浅田 久子			
会計情報	事業コード	630225	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	02 公民館費	会計	01 一般会計	決算付属資料	242	頁
施策体系	施策コード	020101	施策名	生涯学習を充実させる									
計画期間	開始年度	平成18年度	終了予定年度	令和3年度	関連計画名								
根拠法令等													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☑ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）												
R3現在の状況	☑ 継続中 ☐ 廃止/休止 ☐ 他事業へ統合 ☐ 他事業を統合												
関連事業													

Ⅱ 事業基礎情報

事業目的（あるべき姿）	地域の特性、特色を活かしながら住民ニーズにあう生涯学習活動を通じた人づくり、明るい地域づくりを目指す地区公民館活動を支援し、地域の振興を目指す。				
対象者	地区公民館	対象者数	31	単位あたりコスト	463.8
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					
事業概要（箇条書き）	「公民館活動のしおり」発行（各地域・地区公民館の１年間の活動をまとめた冊子） 地区公民館事業負担金：各地区公民館が行う生涯学習活動に対し、支援を行う。 地区公民館長・主事への報償				

主な支出に係る業務内容と経費

支出に係る主な費目	支出実績（R2）	主な業務内容
報償費	4,698	館長・主事報償費
旅費	7	京都府公民館連絡協議会参加（普通旅費）
需用費	39	冊子印刷製本代、教育委員会表彰用品代
役務費	38	筆耕料、郵送料
負担金補助及び交付金	6,796	公民館事業負担金、京都府公民館連絡協議会負担金

Ⅲ 予算執行状況

区分		R1（評価前年度）	R2（評価年度）	R3（本年度）	R4（要求年度）
予算情報	① 当初予算	12,561	12,153	12,022	11,190
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	0
	次年度繰越	0	0	0	0
小計（①～③）		12,561	12,153	12,022	11,190
予算財源内訳	① 一般財源	12,561	12,153	12,022	11,190
	② 国支出金	0	0	0	0
	③ 府支出金	0	0	0	0
	④ 地方債	0	0	0	0
	⑤ その他特財	0	0	0	0
決算情報	① 流充用額	△ 435	0	0	0
	② 配当予算	12,126	12,153	0	0
	③ 執行額	12,126	11,578	0	0
	④ 執行率	100.0%	95.3%		
人工概算	① 従事職員数（正職員／嘱託職員）	0.48 / 0.01	0.35 / 0.00	0.35 / 0.00	0.00 / 0.00
	② 概算人件費	3,865	2,800	2,800	0
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		15,991	14,378	2,800	0

主な利用特財（N－1年度実績値）	特財名称		種類		実績金額		決算付属資料		頁

Ⅳ 業績指標

成果実績（アウトカム）実績／目標	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	地区公民館活動数	回	279/280	280 / 280	116 / 280	/ 280	280
				/	/	/	

活動実績（アウトプット）実績／計画	指標	単位	H30	R1	R2	R3	最終目標
	地区公民館への活動支援数	館	29/31	28 / 31	27 / 31	/ 31	31
	単位あたりコスト		432.3	433.1	428.8		
				/	/	/	
	単位あたりコスト						

Ⅴ　一次評価（事業担当所属内による自己評価）

項　　目	評価の観点	評価	評価の理由
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	・学習活動で得た成果を活かして、現代的な課題や地域の課題解決に取り組める人材育成や活力ある地域コミュニティーづくりを推進するためには必要。
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	・地区公民館活動においては、市との共催事業として実施しており、地区公民館の費用負担は、約90%である。（各地区公民館事業費平均2,300千円）
有 効 性	・成果目標は理にかない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	・成果目標については、事業規模から経験的に期待される目標としているが、福知山市域の最も住民活動に根差した地区単位での社会教育・生涯学習活動を行う上で、有効的な事業である。
事業の目的及び指標等の達成状況に対する定性的評価	●生涯学習・社会教育の推進団体として、各地区公民館が行う「あいさつ運動」、「交通安全対策」、「各種スポーツ大会」、「公民館まつり」、「体育祭」、「人権講座」、「各種講座」、「敬老会」などの行事と、学習活動、家庭教育・青少年健全育成の推進、人材育成活動と多くの活動を継続して実施いただいている。 ●各地区公民館館長・主事、各地域公民館館長・主事で構成する「福知山市公民館連絡協議会」では、各公民館の交流を深めるとともに、現代的課題を共有し、どのように解決するかについて協議を行っている（年2回開催）。 ●令和2年度に関しては第1回館長・主事会、第2回館長・主事会が新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、中止とした。また、各地域公民館においても年間をとおして、新形コロナウイルス感染拡大防止により計画されていた行事が中止された。 ●コロナ禍における住民の生活スタイルが変化していく中で、今後新たな形態による各種事業・行事の計画、開催方法を検討実施していくことが必要となる。		
これまでの課題及び今後の方向性	●各地区での住民主体による生涯学習の推進に必要不可欠であるため、継続的に事業を推進する。 ●各地区公民館で様々な生涯学習活動が実施されているが、急速な少子・高齢化などにより若者の参加者が減少している。より魅力的な生涯学習活動の実施が求められる。また、地区公民館を運営する館長・主事などの役員の人員確保が困難な状況となり、休館とする公民館がある。 ●住民自治基本条例に基づく地域協議会の体制や運営に関わり、地区公民館組織は重要な役割を担うと考えられ、公民館組織体制の充実が大切である。 ●現在までに休館している地区公民館は、平成24年度から大江地域の2地区、平成31年度に同地域で1地区、令和2年度に同地域で1地区、令和3年度から三和地域で1地区が休館となった。館長・主事などの役員の人員確保が困難な状況が続いている。 ●地域づくり組織との連携等、今後の組織のあり方を検討する必要がある。		

Ⅵ　二次評価（事業所属外による他部署評価）

事後評価コメント	

Ⅶ　評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☑ 事業の見直しなし	●地域ニーズに応じた生涯学習活動の充実と地域を支える人材育成を支援する。 ●地域づくり組織及び地区公民館との連携を更に深め、地域課題の解決に努める。

Ⅷ　予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持　☐ 廃止/休止　☐ 予算拡充　☑ 予算縮減 ☐ 他事業を統合　（統合事業名：　ー　）　☐ 他事業へ統合　（統合先事業名：　ー　）